

いろいろ火の里 
みかわ

ざわい



みんなで明るい町に
町民の声を政策へ
好評テオトルタウン三本木
若者が活躍する地域づくり
三川の歴史を再発見
郷土愛を育む教育
参加者を笑顔に

小学生との議場懇談会	P 2～3
議員と語る会	P 4～5
6月定例会	P 6～7
一般質問	P 8～16
退職議員との研修	P 17
所管課等研修	P 18～19
シリーズ④「がんばってます」 猪子米寿サロン	P 20

No.170
6月議会
2025.
7.15

6/17
(火)

小学生との 議場懇談会

合う明るい町に

迎えて、議会議員との懇談会が行われました。
くりへの提案や要望が述べられるなど活発な意見交換が行われました。

安心して暮らせる町

痛ましい事故や悲しい事件がない平和な町にするために、狭い道路の改善や、冬期間の県道の歩道除雪をしてほしい。

また、交通安全標語を地域で募集し町内会に掲示することで、交通安全につながると思います。
空き家付近の犯罪防止のために「防犯カメラ」を設置してほしい。

命の安全が 守られている町

道路の除草やくぼみの修繕と見えづらいカーブミラーの対策などをお願いしつつ、草取りや石拾いなど、小中学生ができる活動を、地域と一緒に実施してほしいです。
また、どこでもはつきり聞こえる防災無線にしてほしいと思います。

押切小学校

にぎやかで 活気のある町

三川町に高校をつくることで学生が来てにぎやかになり、三川町を好きになる人が増えることにつながると思います。

また、自然を生かした宿泊施設をつくったり、町定番のお菓子をパンフレットにまとめて宣伝することで、もっと知ってもらえると思います。

東郷小学校

三川の人も町外の人も 盛んに交流する町

町の「歴史ツアー」や、菜の花や米を作ったりするイベントに町内外の人が参加できる催し物があったら、町の良さを知る人が増えて活気づくると同時に「地産地消」も進み、農業にも良い効果が期待できると思います。

みんなで協力し合う 明るい町

「みかわん」の人形や稲藁を使った作品を制作するなどの活動を通して、地域の人たちと協力し合う町を築くことができると思います。

また、花畑やフラワーロードづくりに協力して植えることで関わりが増え、町全体がきれいになるくなり、これをポスターにすることで、協力する気持ちが広がると思います。

ボランティアで つながる町

「バルク赤川」などのポイ捨て対策として、リサイクルや自然環境のことを学ぶ場や分別ができるごみステーション設置と同時に、ごみ拾いや資源回収ボランティアを、みんなで行う流れがあると良いと思います。

また、不用品をフリーマーケットに持ち寄り有効活用するなど、みんながつながり環境にも優しい住みやすい町になつていければ良いと思います。

(2) 3 ページまとめ 鈴木 淳土



加藤 悠愛

私は議場懇談会をとおして、準備の時には、町を良くしていくためにグループで話し合つて、他の学校の人や議員さんたちになつとくしてもらるように考えられてよかったです。

本番では、他の学校の人や議員さんたちの話をメモしたりできてよかったです。

自分が発表したとき、はきはきと元気にできました。これからの生活に生かせるように考えを深めていきたいです。



佐藤 東咲

私はこの日を楽しみにしていました。東郷小学校からは、防災無線、三川町の歴史ツアー等の思いを伝えました。

それらの意見を議員さんが聞いて、直接答えてくださるので、一緒に話をしているようでうれしかったです。

また、三校の六年生全員の心が一つになつたようで楽しいと感じました。他の学校の意見も、私たちでは思いつかないような内容でした。とても貴重な体験ができました。

みんなで協力し

三川町役場議場に町内の小学6年生66名を
各小学校で取り組んでいる活動目標の報告につづき、これからの町づ

学校でがんばっていること

横山小 児童会スローガン 「みんながわくわく、元気に過ごせる学校」

- ・けんかしたり相手が傷つく言葉を使ったりしない。
- ・ろうか歩行や学校ルールもみんなで守っていこう。
- ・対話を通して自分たちで課題を解決し、みんなが楽しくなる学校づくりをがんばっていきたい。

東郷小 児童会目標 「元気・思いやり、笑顔でつながる東郷っ子」

- ・「主体的」：何事にも「自分から」がんばることをこころがける。
- ・「思いやり」「協力」：「みんなで」がんばることをこころがける。
- ・自分から相手に明るいあいさつをしたり、進んで「ちょボラ」を行ったりすることで全校が笑顔になることを目指しています。

押切小 押切スタンダード 「あいさつ・返事・後始末」

- ・あいさつは、相手に届くように心がけています。
- ・返事は、「はい」の後に小さい「っ」をつけて、言われてうれしい気持ちになるような返事を頑張っています。
- ・後始末は、見た目、中身もスッキリ、心もスッキリになるような後始末を頑張っています。

議員の感想

町の現状にあった意見が多く、よく町のことを勉強してからの意見だなと感じました。

小学生の皆さんとこうして議場でお話しできたことを、私たち議員一同、とても嬉しく思っています。皆さんの素直な疑問や率直な意見に、私たちも多くの気づきを得ました。

「町のことを考える」というのは、大人だけの仕事ではありません。皆さんのような若い声が、これからの三川町をよりよくする大きな力になります。今日のこの時間が、「自分たちにもできることがある」と思えるきっかけになっていたら、とても嬉しいです。

どうか、これからも身のまわりのことに関心をもって、思ったことを大切にしてください。そして、またいつか、今日の経験を活かしてこの議場に戻ってきてくれたら、こんなに嬉しいことはありません。（副議長：鈴木重行）

住民の声に対応する 安心安全な町

住民の困りごとに、すぐに対応できたら安心できるし、みんなでルールを守れば安全な町になると思います。

横山小学校
みんなに優しく
助け合う町
みんなが互いに優しい
気持ちで助け合う町にしたい。

「アイデア」募金を募り、みんなが利用できるタクシーやバスを走らせたい。

「アイデア」お年寄りとの交流の場に若い人にも参加してもらえるように発信したい。

特色を生かした 楽しい町

町の特色や魅力の発信
とイベントを開催して楽しく町を盛り上げる。

「アイデア」米祭り」など農業体験会を開く。

「アイデア」菜の花ミュージアム」として、テオトルで町の歴史を伝える。

「アイデア」三川町ウォーキング・スタンプラリー」で、町の魅力を知ってもらおう。



徳江 凛

私は、議場懇談会に参加し横山小学校の児童会ががんばっていることと三川町をどんな町にしたいか提案しました。私たちが提案した「米祭り」を今年行うと聞いてびっくりしました。

また、四年生のころ社会福祉センターに行った時のことを議員さんが覚えていてくださってうれしかったです。

この懇談会で、クラスのみんなで考えたことを議員の方々に伝えられてよかったです。

員と語る会」開催報告

より参加いただき、貴重な意見を伺うことができましたので報告いたします。



町外へも行ける移動手段が欲しい
免許を返納するとどこにも行けない
現在のデマンド交通は不便



認知症になるのが
不安



高齢の独居世帯には
見守り体制の整備を



小学校の空き教室で、高齢者と
小学生のふれあいの場を

子育て
支援の充実を



田んぼに
ゴミが
捨てられて
困る



補聴器の
購入に助成を



三川町の
PR を強化
すべき



地域の未来を共に創る「議」

6月11日テオトルに於いて「議員と語る会」を開催しました。多くの町民の方々



小学校の通学路の
安全確保を



若者の雇用に力をいれて
流出を防ぐべき



防災グッズの
配布の充実を



幅広い年代の
移住を促進
しては



防犯カメラを
設置して
安全な町に

三川町も
給食を
無償に！



「議員と語る会」
を終えて

町野 昌弘 議長

今回は日中開催にした
事からか、これまで以上
の数の町民と意見交換が
出来ました。

内容は、議会でも度々
話題になっている公共交
通問題や空き家問題につ
いては議会と共通認識で
語りあえたと思いました。
しかし、子育てに対す
る行政の姿勢が少し後ろ
向きとの意見もあり、今
後の課題だと感じました。

タウン三本木

6月
定例会

第3回議会定例会は6月4日から9日までの会期で開催されました。諸般報告5件の後、専決処分3件、令和7年度補正予算4件、条例改正2件、事件案件1件、人事案件10件が上程され原案どおり可決されました。

一般質問は8人の議員が町政全般について質問しました。

補正予算

一般会計

5317万3千円を増額し、55億1517万3千円となりました。その後追加提案により10万6千円が追加され55億1527万9千円となりました。

(主な質疑)

●総務費

物価高騰対応重点支援金調整給付事業に1224万5千円を追加

問 6月から全世帯にクーポンを配布しての事業が行われているが、新たな事業なのか。

町民課長 昨年実施された定額減税に伴うもので、令和6年の所得が確定したことで給付を行うものです。



故障中のエアコン

●民生費

保育費に工事請負費200万円を計上

問 工事内容は、

子育て支援室長 保育園の一時保育室等のエアコンの故障に伴い、夏を前に喫緊の対応が必要となったためです。

●農林水産業費

山形のうまいもの創造支援事業として1000万円

問 事業内容は、

産業振興課長 農業者自ら行う6次産業に向けた取り組みのために必要な機械の導入に対して支援するものです。



(6)7ページまとめ 砂田 茂

●商工費

「いろいろ火の里」推進事業、工事請負費に2015万円を追加

問 当初予算に計上された中で今回も補正で出されましたが、今後も発生するののか。

企画調整課長 老朽化に伴う修繕・補修が必要となる恐れはあると思います。

条例改正

三川町職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例の制定

(提案理由)

地方公務員の育児休業に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、育児を伴う職員の職業生活と家庭生活の両立を支援し、部分休業の取得形態の多様化等に対応するため。

三川町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定

(提案理由)

国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、選挙長等の報酬額の改定等のため。





好評 テオトル



残り1区画となった
テオトルタウン三本木



造成中のみかわ産業団地（青山）

●土木費
移住定住促進事業に
270万円を追加

問 テオトルタウンの好評を受けて、人口減少対策と少子化の中で今後の宅地造成に対する考えは

企画調整課長 新たに70区画の計画はありますが、現在進めているみかわ産業団地の状況と近隣の状況、経済状況を踏まえて宅地造成の時期を検討していきます。

読者の窓

議会広報誌のよく読むページや気になる取り組みはありますか？

議会広報誌は、隅から隅まで読ませてもらっています。三川町や議会の様子がわかりやすく良い広報誌だと思います。

議員の質問の意図や議論の内容が伝わる内容の記事になっていましたか。また、分かりづらい記事等はありませんか？

発言する議員の目線や意図する質問が住民にわかりやすく、横文字を少なく分かりやすい文面で、公約実現と住民目線を大事にした議員活動を希望します。

より読みやすい、手にとりやすい広報誌にするためにはどのような取り組みが良いかアドバイスをお聞かせください。

字を大きく、写真やカットを多くする。

議会への要望等があればお聞かせください。

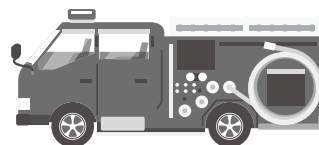
子育ての三川町と同時に高齢者が多くなっている現状に対しての対応や対策を考えてほしい。



阿部 紘一さん
（横山中）

消防積載車購入契約

名 称	消防積載車購入
契約の方法	指名競争入札による契約
契約金額	7,645,000円
契約の相手方 事業所所在地	山形県鶴岡市 美原町17番32号
商号または名称	株式会社大滝商会



人事案件

農業委員会委員の任命

- ・五十嵐晃樹（青山）
- ・黒田 暢（横川）
- ・石栗 聡（横川）
- ・大川 里美（上町）
- ・齋藤 学（落合）
- ・大沼 隆一（東沼）
- ・松田 潤（成田新田）
- ・菅原 義弘（押切中町）
- ・佐藤 裕一（青山）
- ・五十嵐有紀子（押切中町）

町政を問う

6月定例会

一般質問



議会ホームページは
こちらから
(音声配信中)

一般質問 とは…

町政に関して議員が質問を行い、新たな政策の提案や意見を述べ、時には是正を求め、町政をより良い方向へ導くものです。

6月4日、6日と9日に8人の議員が以下の項目について質問しました。
●の内容を掲載しています。

佐竹 優子 議員

(9ページ)

- 若者の声を町づくりへ
- 人手不足解消に向けた支援を

土田 市子 議員

(10ページ)

- 中学校冬季通学バスを町の運営に
- 三川町指定文化財の活用と維持管理について
- にぎわいの町 誘客について

砂田 茂 議員

(11ページ)

- 特別障害者手当について
- 放課後等デイサービスについて
- 生理用品の常備について

鈴木 淳士 議員

(12ページ)

- 町外への移動支援策を
- 「相続相談支援室(仮称)」の新設を

小野寺 正樹 議員

(13ページ)

- 不登校の子どもに対する対応策は
- 三川独自の無形文化財を
- 避難所における自主防災の役割は

佐久間 千佳 議員

(14ページ)

- 子どもまちづくり予算の創設を
- より住みやすいまちづくりを

小林 茂吉 議員

(15ページ)

- 職員提案制度を生かせ
- 災害ケースマネジメントと避難所運営について
- 次期「Mターン戦略」について

志田 徳久 議員

(16ページ)

- 「パルク赤川」増水被害へ国の支援は
- 「暑熱順化」への対応は
- 防災対策について
- 住民の通勤・通学の交通確保について

(8) 16ページまとめ 小野寺 正樹・土田 市子

若者の声を町づくりへ

町長 意見交換と活動支援を検討する



さ た け ゆ う こ
佐 竹 優 子 議員

町長 年3回の「町長と語る会」を実施し、若者の地元定着と回帰を促進するため、若者から広く意見を集め、具体的なニーズや課題を把握することが重要であると考えますが。

問 若者の地元定着と回帰を促進するため、若者から広く意見を集め、具体的なニーズや課題を把握することが重要であると考えますが。



若者の声を聞き、活躍する場を

会の創出や活動の支援を検討します。

問 若者の町づくりへの積極的な参加を促すため地域活性事業やイベントなどのアイデアを募集し、企画段階から参加する機会を提供していく考えは。

町長 納涼祭は若者団体が企画段階から参加しています。中高生ボランティアサークル来夢ランティアサークル来夢来人は活発に活動していて、今後の町づくりへの参加を期待しています。

問 企画コンペの形式で若者のアイデア出しの機会の検討は。

課長 「三川町協働のまちづくり推進事業」による団体の公益事業への支援を行っていますので活用に加え、自主的に企画立案に取り組んでいただきたいと思います。

スキマバイトで働き手確保の推進を

問 (株) タイミーとの協定締結に至った経緯は。

町長 人口減少等で労働力の確保が年々困難になっており、商工会や事業者から「短時間でも、まずは働き手を確保をしたい」との切実な意見も多くある状況から、タイミーと連携し、労働力確保が必要と判断しました。

問 町内事業者と求職者が得られるメリットと、懸念される課題は。

町長 タイミーが町内事業者の説明会を実施し、個別に実情に応じた業務「働いてほしい時間」と「働きたい時間」とをマッチングできるため町内事業者と求職者の双方にメリットがあります。

一方、事業者の課題としては、サービス利用料として労働者に支払う報酬の30%の負担が生じるため、利用を躊躇する可能性も考えられます。



スキマバイトのアプリ活用で、柔軟な働き方の選択にも期待

中学校冬季通学バスを町の運営に

教育長 国の基準で対応している



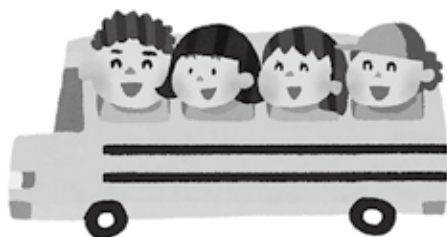
つちだ いちこ 議員
土田 市子

問 中学校冬季バス運行に関し保護者の負担が増加しています。町でも多額の補助金を交付していますが、その考え方は。

教育長 冬季バス運行は中学校PTAが主体となり自主組織として運営しています。町は保護者の経済的負担軽減を図るため、補助金を交付しています。

問 バス運行を町直営で行うべきでは。

教育長 国の基準では小学校4キロメートル以上、中学校は6キロメートル以上であり町では運行していません。



望まれる町営バス運行へ

問 バス運行会社へ多額の委託料が支出されていますが、町でバスを購入する、または町の運営とする考えは。

教育課長 町の支援を継続する考えであり、現時点では新たなバスの購入は考えていません。

三川町指定文化財の活用と維持管理について

問 誇れる町の宝物である指定文化財を「みかわ秋まつり」で展示するなど、誰でも親しむようにできないか。

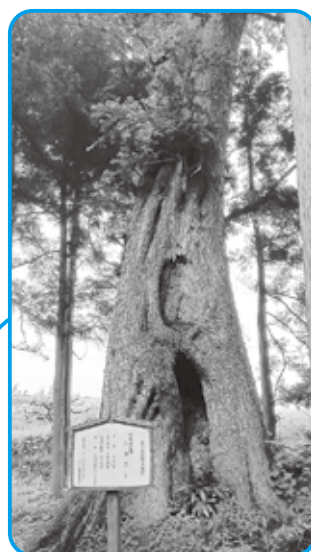
教育長 貴重な地域資源であり、保存し後世の地域社会の礎として伝えていく事が活用と考えています。

子ども達には地域の歴史や文化について学ぶ取り組みをしており、地域への愛着や郷土愛につながるものと考えています。

また、「みかわ秋まつり」でのパネル展示や、生涯学習情報誌「まなびい」に掲載しPRしていきます。

問 青山神社のハルニレ、山の神のケヤキは、強風による倒木の恐れなど予想されるが、一個人での維持管理は難しいのではないか。

教育長 町の文化財保護審議会委員が年に一度一地区において巡回点検し、文化財の状態を把握しています。修理等に多額の経費を要し、所有者がその負担に堪えない場合には、町の子算の範囲内で補助金を交付します。



青山神社のパワースポット
ハルニレ



青山神社

特別障害者手当月額約3万円支給

町長 本町では7人が受給



すなだ 砂田 しげる 茂 議員

問 特別障害者手当の支給状況は。

町長 精神または身体に重度の障がいがあり、日常生活で常時特別の介護を必要とする状態にある在宅の満20歳以上の方に支給されます。この手当は、町が受付を行い県が支給するもので、令和6年度は、7人が受給しています。



常時特別の介護が必要

問 月額2万9590円が支給されるこの制度を知らないため、申請していない現状もあるが検証しては。

健康福祉課長 制度を知らない町民もいると推測されます。広報等も含めてどんな発信が有効か検討します。

障がい児の学童保育

問 放課後等デイサービスとの役割と重要性は。

町長 障がいのある子どもたちが放課後や長期休暇時に安心して過ごせる場所で、日常生活や社会性のスキルを育む支援を行う福祉サービスです。

問 専門スタッフによる個別支援や学習・療育のサポートを通じて、子どもたちの発達を促し、成長と将来の自立を支えるとともに、保護者の負担軽減にも貢献しており家庭と地域全体を支える重要な役割を担っています。

健康福祉課長 令和4年度が7人、5年度が10人、6年度が14人、直近の4月末現在では17人で、年々増加傾向にあります。

問 増加傾向の要因は。

健康福祉課長 早期発見と支援体制が整備され学校でも障がいの可能性がある子どもへの対応が強化されてきました。以前は落ち着きがないというだけで判断されていたものが障がいというかたちで見直され支援を受ける機会が増えたこと。また障がいを隠さないという社会情勢、核家族化や共働き世帯の増加に伴い、就業時間中は施設からみてもらいたいという家庭が増加しているなどの社会構造の変化が考えられます。



4月に開設された放課後等デイサービス「ハーモニー」

町外への移動支援ができるのでは

町長 今後は具体的な方策を検討したい



すずき じゅんし
鈴木 淳士 議員

問 町長に対して「通院等の為、デマンドタクシーで鶴岡に行けるようにしてほしい」と要望しましたが、制度的に無理との返答だったと相談がありました。

町長 庄内全域で構成する「地域公共交通会議」において、民間運送事業者からの理解が得られず、町外運行ができない状況を説明したことがあります。

問 調べたところ、三川町は「交通空白地帯」として、病院等特定の目的地指定による町外運行が可能であり、ま

ま

た、社会福祉協議会や町内会による無償運送は、町外運行が可能であるとのことでしたが所見は。

町長 地域公共交通については住民福祉の観点から対応を求めている経緯があり、関係事業者との調整を図りながらいま提案された方向に進



むよう、しっかりと対応したいと考えます。

問 社会福祉協議会に「ボランティアセンター」が設置された一方、介護保険事業の通所介護が展開されています。そもそも福祉センターはボランティア活動の拠点であり、この通所介護を以前の「ふれあい広場」に戻して、ボランティアの皆さんから送迎サービスに協力いただければ。

副町長 (社会福祉協議会副会長) 社会福祉協議会並びに地域包括支援センターの職員と協議しながら対応を考えていきます。

山形地方法務局からのお知らせ

相続登記のお手続きはお早めに！

令和6年4月1日から相続登記の申請が義務化されました。

詳しくは、下のQRコードか「あなたと家族をつなぐ相続登記」で検索

不動産登記推進イメージキャラクター 山形ご当地トウキツネ

期限迫る相続登記に支援策を

問 相続登記の費用軽減を図るためにも、登記申請の解説や戸籍に基づく助言などを行う相談支援室を設置しては。

町長 葬儀等が終了したのち来庁いただき、相続登記が必要となる戸籍について解説したり、

法務局に相談できることなどを説明しています。

問 先々代の相続登記が未了の方々に対して何らかの対応策が必要では。

町民 相続登記に代わる「相続人申告登記制度」もあります。

不登校の子どもへの対応策は

教育長 また明日来たくなる学校に



問 不登校や抑うつ症状の子どもが全国的に増加していますが、三川町の現状は。

教育長 全国平均として在籍児童生徒に占める不登校の割合は3.7%であり、本町でも全国平均とほぼ同じ割合で存在している現状で、

その状況に心を痛めています。

問 不登校を減らす対応策は。

教育長 教室に向かうことができない子どもたちのために、保健室登校などのほか、小学校では特別支援学級支援員が別室教室として対応



おの まさき
小野寺 正樹 議員

しています。
中学校では教育相談室を別室教室として、1日4時間非常勤の先生を配

三川独自の無形文化財制定を

問 獅子舞をはじめとする伝統文化について今後も継承するため三川町として守るべきでは。

教育長 地域内でのよう

に実施・継承されているか、またその文化財が持つ歴史的・文化的な価値がどれほど高いかが評価されることで得られる支援もあります。

その一方で、登録後の維持管理や活動の継続に関する地域としての責務も伴うこととなります。

これらを踏まえて、活動団体の意向を考慮することが重要と考えています。

問 全国的にお国言葉が消滅の危機に進

置き、オンライン授業や家庭で自学ができるよう整備しながら支援しています。

んでいるなか、方言は三川町として守るべき地域の宝だと思いますが、無形文化財として登録しては。

教育長 方言は地域の歴史や風土、生活様式を反映しており、地域住

民にとっては大切なコミュニケーション手段でもあります。そのため、方言を守ることは、地域文化の継承にとって重要であると認識しています。
一方で、方言が持つ独自性や伝承の方法、地域社会における役割などを詳細に示す必要があり、多角的な視点から評価が求められ、現時点では方言を無形文化財として登録することは難しいと考えます。



横山八幡神社の獅子舞

子どもまちづくり予算の創設を

教育長 試験的に実施する



さくま ちよし 議員
佐久間 千佳

問

三川の課題解決や将来への思いを具現化するため、子どもに用途や目的を決定してもらった「子どもまちづくり予算」を創設しては。

教育長

子ども達が地域社会に対して持つ思いや意見を反映させることは、子どもの成長や未来の町づくりに非常に重要な要素です。

まずは、今年度や来年度、既決の予算等を活用して小規模な実践を行いたいと考えています。

具体的にはモデル校を指定し、新しい取り組みや手法を試験的に実施して効果や課題を検証します。

問

教育長

「三川ふるさと学習」の効果と課題はこの取り組みは子どもたちが三川を



子どもたちの思いを予算に
(小学生との議場懇談会より)

知り、理解し、愛着を持つことを目的としていて、地域への関心を高めることに寄与しています。
地域が抱える課題を理解し、解決に貢献したいという意識が育ち、将来の進路を考えるきっかけとなり、仕事への興味関心も高まると考えています。

一方、授業時間の確保時間配分の調整が課題です。

問

空き家対策の強化は。

町長

昨年度より個別事案への相談体制を強化し、「老朽危険空き家等解体促進補助事業」の活用で、2件の解体に至りました。

また、相続放棄で管理すべき者が存在しない事案については、今後、空家法に基づく措置も視野に入れた対応を、他自治体の先行事例や関係機関からの情報収集を踏まえて検討していきます。

問

既存集落の維持発展策は。

町長

町内会の活性化と、円滑な組織運営を支援するため、町内会総会交付金を交付しています。

また、地域の抱える課題を解決するために「協働のまちづくり推進事業」や、町職員を地域に派遣する「コミュニティ活動支援員派遣事業」で自治活動に対する助言を行う体制をとっており、引き続きこれらの事業で支援していきたいと考えています。



空き家管理は適正に
(※イメージイラスト)

より住みやすいまちづくりを

職員提案制度を生かせ

町長 制度を継続すべきか検討する



こばやし しげよし
小林 茂吉 議員

問

職員の自由な発想に基づき、行政事務の効率化、町民サービスの向上、職場の活性化が期待される制度の活用状況は。

町長 直近の5年間で、令和6年度の提案は1件ですが、日常的な



窓口に職員提案で設置された座机

問

打ち合わせやフロア会議などを通じて意見交換や提案される状況でもあります。

職員へこの制度が理解されていないのではないかと。職員一人ひとりが積極的に提案を行うための一助として、

制度の概要や提案の進め方、提案書の作成ポイントなどを分かりやすく解説したガイドブックを配布すべきでは。

総務課長

どれ程に制度そのものが職員に理解され、浸透しているかは疑問ですが、提案しやすい工夫を検討します。

問

提案が不採用と決定したものであつ

災害ケーススマネジメントと避難所運営について

問

すべての人に救助の手が行き届くきめ細やかな支援を可能とする「災害ケーススマネジメント支援策」を制度化すべきでは。

町長

「災害ケーススマネジメント支援策」は支援窓口に出向くことが難しい被災者や、本来支援が必要であるにも関わらず声を上げられない被災者に対して非常に有効であると考えます。

自主防災組織との連携や避難行動要支援者名簿

でも、奨励として提案者を報奨することは評価されます。

報奨内容を、積極的なより良い提案につながる新たなインセンティブの付与を検討すべきでは。

総務課長

若手職員が提案しやすいスタイルを考え、魅力を感じる制度の見直しを図ります。

問

と考えられることから、制度化については現時点では考えていません。

町長

27 自主防災組織リーダーと行政機関が一体となり総合的な避難所運営管理体制を確立するため、学校避難所運営委員会の設置が必要では。



自分たちの命は自分たちで守る

「パルク赤川」増水被害への対応は

町長 国へ要望を検討



しだ とくひさ
志田 徳久 議員

問

三川町かわまちづくり整備事業で整備された施設における赤川増水時の対応とその後、の復旧に向けた対応策と国の支援は。

町長

降水量及び月山ダム・荒沢ダムの放水量により施設の浸水が見込まれる場合は、被害を最小限に抑制するため、トイレを移動するなどの対応を行っています。

問

浸水により施設に支障が生じた際は、修繕等を行っています。この費用は施設設置者である本町の負担となっています。かわまちづくりで整備した事業を見直すべきでは。

町長 災害復旧の修繕は、国の支援要望を続けていきます。



パルク赤川

「暑熱順化」への対応は

問

小中学校で、5月6月において近年暑さに慣れていない児童・生徒の熱中症が心配されますが、「暑熱順化」への取り組みは。

課長

気温が上昇している時期であるため、外での体育の授業や野外活動を徐々に増やし、子どもたちの体を暑さに慣



三川中学校に設置されている
クールダウン機

れさせる機会を整えています。

熱中症対策としては、小中学校のほとんどの教室にエアコンが整備済みであり環境は整っていると認識しています。

気温が高くなる前から熱中症に気をつけるため、全校集会を通じて熱中症とは何か、その症状が出た場合の対処法や水分補給の重要性について指導を行っています。

校内に暑さ指数や温

問

度・湿度を掲示し、子供自身がその日の気象条件を理解し、必要な水分補給や休息を取ることができるよう促しています。

野外活動等で暑くなった場合に備えて、三川中学校に設置してあるようにスポットクーラーを各小学校にも早急に設置すべきでは。

課長 全小学校に今年度予算で計画しています。

地域の宝を再認識

退職議員との研修会

令和7年6月13日、元議員の皆さんと共に視察研修を行いました。

今回は、横山下の八幡神社厨子（ずし）や狛犬（こまいぬ）、押切中町にある耕福寺の力士像を拝見して来ました。

三川の文化財の歴史を肌で感じ、現状把握と、重要性を再認識することができました。

横山下 八幡神社

八幡神社の歴史は古く、奈良時代の後期とも言われ第49代光仁天皇の時代に宇佐神社（大分



八幡神社の御由緒、社殿、文化財のほか、地域や社寺の歴史について荒田宮司より説明



八幡神社に移設された戦没者慰霊

県宇佐市）からこの地にやって来たと言われています。神社の内殿の奥には桃山時代（1595年）と書いてある小さな社があり、建築史上大変貴重なものでありました。

狛犬に関しては江戸時代（1618年）の墨書銘がありこれも大変貴重な資料です。

三川町では昭和49年に有形文化財に初めて登録されました。

荒田宮司より文化財を守るため、地域全体の協力無くしては維持出来ない旨の話がありました。

押切中町 耕福寺

押切中町にある、耕福寺では力士像を拝見しました。迫力に圧倒され、子どもの頃、「悪い事をする」と力士像の代わりに天



耕福寺の梁上に据えられた三体の力士像

壘に着手して成し遂げた佐藤三右衛門が社寺を建てたことに始まると伝えられています。本堂玄関内の頭上に鎮座する三体の力士像は、いずれも一メートルほどの大きさであり、とても表情豊かで力強さと存在感にあふれていました。



表情豊かな耕福寺の力士像

井支えさせるぞ」と言われ、子ども心に怖かった思い出が蘇りました。

耕福寺は曹洞宗の庄内365カ寺の一つになる寺で、三川町史では1627年（寛永4年）に押切地区に開

また、長い年月に伴って老朽化が目立つが天井を支えるとともに災いを防ぎ、訪れる信者を見守るという重責を担い続ける必要性もあることです。今後も文化財を拝見し町民にも魅力を伝える事が出来ればと感じました。

「川の子ども像」示される

日～5月14日、6月19日～20日、各所管課より、
の計画・課題等について説明を受け、意見交換を行いました。

総務文教常任委員会

企画調整課

◎移住促進事業や、オンライン空間上での婚活イベントの実施、結婚新生活支援事業などMターン戦略による人口減少対策を展開していると説明がありました。



移住促進事業

◎デマンドタクシーについて、町外への運行の要望があるものの、路線バスとの兼ね合いから、現状は実現困難であり、課題・検討事項となつていると説明がありました。

総務課

◎地域防災計画について自主防災会を中心に地域住民で助け合う体制を構築、消防団員にも期待している。自主防災訓練実践等へ助成も実施していると説明がありました。

◎町職員の人材確保策として職場体験やチャリ、SNS等を活用しているとの説明がありました。

町民課・会計課

◎マイナンバーカードは現在総交付6186枚(87.6%)となつています。

◎国保制度

定年延長などにより被保険者が減っているとの説明がありました。

教育委員会

◎各学校の取り組み

災害時に備え、児童職員の食糧を備蓄している取り組みや、縦割り班による活動で主体性や思いやりを育むなど各学校の特色が紹介されました。

◎目指す子ども像

「ふるさと三川に想いをよせ、共に輝きつづける人づくり」という三川町教育目標、目指す子ども像を新たに策定し、学校教育、社会教育に携わる方々が同じ方向性で教育活動にあたる方針について説明がありました。



ふるさと学習

6/19

視察研修報告

バイオ炭製造工場（横川）

(有)田和楽が導入したバイオ炭の製造装置が3月より稼働。廃棄されるもみ殻を活用。製造した燐炭を土壌改良剤として稲作に利用、CO₂削減に貢献。



ウェルネス学童クラブみかわ（三本木）

社会福祉法人タイケン福祉会が4月に開所し、約50名の横山小学校の児童が利用している。最大80名の受け入れが可能とのこと。





研修風景

教育目標「三」

5月13
各テーマによる町

産業建設厚生常任委員会

健康福祉課

◎予防接種事業

中学生を対象にしたピロリ菌検査の事業を行うことになった経過や、内容について説明を受けました。

◎地域包括ケア

町内会出前ワークショップの拡大で、地域の繋がりが強化が必要との認識を共有しました。



買い物代行支援 (上町)

子育て支援室

子ども計画策定の経過や、児童虐待の対応状況、放課後等デイサービスの説明を受けました。

建設環境課

◎町道舗装計画

修繕計画や、有利な起債を活用した財源確保策について説明があり、限られた予算で、今後どのように維持を図るのか、意見交換を行いました。



道路舗装工事

◎空き家の利活用

解体が進まない背景や、対策として相続財産清算制度の活用についてなど説明を受けました。

◎パルク赤川

公園としての価値を高める維持管理についての要望等が出されました。

産業振興課・農業委員会

◎「水張り問題」

水田活用の直接支払交付金の制度変更への対応や、現状について聞きました。

◎「地域計画」

策定にあたり農業者にアンケート調査を行ったが「10年後も現状維持」との回答が多く、農地の集約に向けたマッチングに繋がっていない現状など説明がありました。

改善に向けた調査、協議の場についてなど、意見交換を行いました。

◎人手不足問題

ショッピングモール、事業者が抱える働き手確保への課題、「タイミー」との連携について説明。スポットワーカーを中長期的な採用に繋げていくことを期待する声や、町内事業者への支援などの要望がありました。

放課後等デイサービス ハーモニー (袖東町)



(有)和が町民からの要望を受け設立し、4月より7名が利用している。障がいを持つ小中高生を対象に、個々に合わせた発達支援を行っている。

庄内地区動物愛護センター (袖東町)



犬猫を保護し、譲渡事業等を行う山形県庄内保健所の施設で、4月に開所。餌やり等業務はシルバー人材センターに委託。防音・防臭に配慮された建物。

がんばってます

猪子米寿サロン

参加者の笑顔を励みに



猪子米寿サロンの活動は、14年を経過しました。発足から継続しているキーパーソンの方々からアドバイスを頂き、6人で取り組んでいます。年間6回の開催で、参加人数は20〜25人ぐらい

です。午前中に軽スポーツやゲーム、また講師を招いて健康教室、出前講座、歌謡ショー、ミュージックケア音楽療法などを行い、昼食を頂き、その後、午後2時まで茶話会をして閉会になります。

12月の最終回は干支づくりをして、ビンゴゲームで盛り上がりまします。もちろん豪華景品があります。(笑)

参加者の年齢が80歳以上と決まっているので、身体に負担がかからないこと、皆さんが参加できることを考慮して、開催日、活動内容、昼食メニューを相談するのですが、これが最も難しく、長時間になっでしまいます。参加者が、より楽しんでくれたらと思う気持ちが一緒なので、沢山のアイデアが出てくるからです。

男性の参加者がいないのと、キーパーソンの仲間が増えないのを除けば、楽しく活動できていると思います。

「楽しかったよ」「おいしかったよ」と声をかけてもらうと、とても励みになり、お手伝いができて良かったと思うし、大きな笑い声や会話が弾んでいる様子を見てみると、長く元気で参加してもらえよう身の丈に合った活動を続けていきたいと思っています。

猪子米寿サロン

代表 鈴木 良子



表紙の写真



琴平神社(猪子)子ども巫女舞

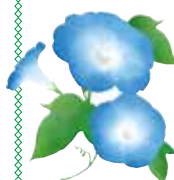
編集室

今年も議場に町内の小学6年生が訪れ、懇談会が行われました。毎年、子どもたちの発想に関心させられます。

また、テオトルに於いての「議員と語る会」にも多くの町民の方に参加いただき、貴重な意見を聞くことができました。

町民のみなさんの声が、町づくりの大きな力になります。これからも身近な存在として、議会の動きをしっかりと発信していきますので、どうぞよろしく願います。

鈴木 重行



発行責任者

議長 廣野 昌弘
編集 広報常任委員会
委員長 砂田 茂
副委員長 鈴木 重行

委員 鈴木 淳士
委員 小野寺正樹
委員 土田 市子
委員 佐竹 優子